



志の志

魅力

誇り

未来

～創生・交流・夢・発信

～好き・尊敬・愛着・自信

～発見・創出・体験・体感

2024
3

作成：士幌町教育委員会

「令和5年度コミュニティ・スクール及び地学協働活動実施状況調査」(文部科学省)より

【事例】CSによる「社会に開かれた教育課程」の実現 (茨城県牛久市)

茨城県牛久市立の小中学校では、学校運営協議会委員が授業研究に参画することで、学校教育に対する理解を深め、教育課程を通して子供たちに身に付けさせたい資質・能力を熟識することにより、「社会に開かれた教育課程」を実現している。

取組に至った背景

- 牛久市では、コミュニティ・スクールの導入も、地域が具体的に何をすればよいか、学校・地域ともにイメージを持っていないことが課題だった。
- 児童生徒の実態や教師の多様な代を地域の方に説明しても、十分な理解が得られなかった。

特徴的な取組

- 校内授業研究会などの機会に協議会委員が授業を参観し、授業参観後に協議会委員が教員と共に授業を振り返る研究協議会を開催することで、指導の改善や学びの深まりについての共通理解を促す。
- 授業内における子供同士の関わり合いや、ノート記載内容等について、教師と違った視点を含めた研究協議会、学校にとって貴重な機会。
- 学校運営協議会において、学校の教育目標と地域の課題解決を柱とした協議により、意図的・体系的な取組を行う。
- 子供に育てるべき資質・能力や地域の課題について、学校と地域が相互に理解した上で、様々な地域学校協働活動を展開。
- 子供の学びと地域課題の解決の両立を目指した取組となった。
- 一部の協議会では、卒業生(大学生)が委員として参画。
- 若者の視点を取り入れたことで熟識の活性化につながった。

成果・効果

- 地域住民の学校教育に対する理解が深まったことで、学校の現状や課題を踏まえた議論が可能となり、「社会に開かれた教育課程」の実現。
- 子供の学びが地域の活性化につながる「学校を核とした地域づくり」へ。
- 授業づくりのサイクルに協議会委員も参加し、教師の授業力向上に貢献。
- 質の高い学びにつながり、子供たちの学力向上にも寄与。

牛久南中学校での実践



市内校長の声

- 学校と地域の連携・協働が進むにつれて、地域の力を講師とした授業が、授業形式から課題解決に変わると、子供たちの学びが変化してきている。
- 旧態依然の技術指導や、教材としての企業資料の提供が、地域の力が授業づくりに活かされていくことで子供たちの学びの質が高まっています。

成果・効果

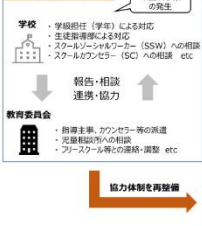
- ◆地域住民の学校教育に対する理解が深まったことで、学校の現状や課題を踏まえた議論が可能となり、「社会に開かれた教育課程」を実現。
- ⇒子供の学びが地域の活性化につながる「学校を核とした地域づくり」へ。
- ◆授業づくりのサイクルに協議会委員も参加し、教師の授業力向上に貢献。
- ⇒質の高い学びにつながり、子供たちの学力向上にも寄与。

「開かれた教育課程」の実現
教師の授業力向上に貢献

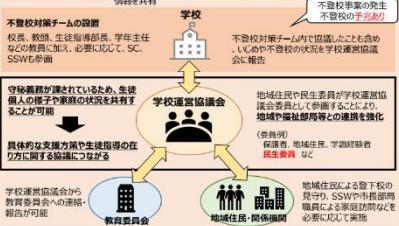
【事例】CSを活用した不登校対策の取組 (北海道登別市)

北海道登別市では、コミュニティ・スクールの導入を契機に、保護者・地域住民等を含めたチームとして不登校対策に着手。学校運営協議会の組織を生かし、多様な関係主体との協働による情報共有や連携・協働により、新たな不登校の発生を抑えることができた。

CS導入前



CS導入後



登別市の不登校児童・生徒数の推移

	CS導入前			CS導入後		
	H23	H24	H25	H27	R28	R29
小学校(A)	6	7	8	5	4	1
中学校(A)	3	2	2	2	2	1
合計(A)	3.6	3.3	3.3	2.6	2.6	1.9

- CS導入後、5年間で約3割減少
- 成果・ポイント
- 学校運営協議会が個人名を出して報告することにより、当該児童生徒やその家庭と関わりがある委員から新たな情報を得たことで、教職員が即時かつ適切に保護者に関わったり、支援策を講じたりすることができた
 - また、学校運営協議会委員からは「当該児童生徒の家庭と関わる機会があれば、情報を提供する」「町内会行事や登下校時に児童生徒の様子を観察する」などの申し出もあり、学校と地域住民等がチームとして不登校対策に取り組む体制を構築することができた

成果・ポイント

- 学校運営協議会が個人名を出して報告することにより、当該児童生徒やその家庭と関わりがある委員から新たな情報を得たことで、教職員が即時かつ適切に保護者に関わったり、支援策を講じたりすることができた
- また、学校運営協議会委員からは「当該児童生徒の家庭と関わる機会があれば、情報を提供する」「町内会行事や登下校時に児童生徒の様子を観察する」などの申し出もあり、学校と地域住民等がチームとして不登校対策に取り組む体制を構築することができた

即時かつ適切に支援策
チームとして取り組む体制

【事例】専門高校におけるCSを活用した産学官の連携 (広島県立庄原実業高校)

広島県立庄原実業高校は、学校運営協議会やコンソーシアムの仕組みを活用し、産学官が連携、協働した教育課程の実施などの地域と産業界、専門高校が一体となった取組を進めることで、地域の未来創造に貢献できる人材を育成している。

取組概要

- コミュニティ・スクールの取組をきっかけとして「庄原ひとづくりコンソーシアム」を結成し、産学官が連携して、地域の持続的な成長を牽引する取組を進めている。
- 産学官が連携して、地域の持続的な成長を牽引する取組を進めている。

工夫・ポイント

- 学校運営協議会の委員と地域の産学官の関係者が対話を重ねながら活動することで、関係者全員で目標・課題の共有が可能
- 産学官と協働研究の成果について生徒たちが発表することで、学校運営協議会における効果的な改善策の議論につながっている

特徴的な取組

- 学校運営協議会での協議をもとに、以下の助言や援助を実施
- 科目「課題研究」に係る生徒への指導・助言、学習成果発表会での審査
- 最先端の農業技術習得のための実習に係る講義提供・講師の選考
- 産学官と連携、協働した最先端の農業教育(スマート農業等)を実現

成果・効果

- 現在学んでいる学校・学科に進んだことを大変よかったと思っている生徒の割合
庄原実業高校：83.7% (回答対象高等学校の平均値43.1%)
- 地域に関する学習や体験活動を行うことで、地域の良さに気づくことができた生徒の割合
庄原実業高校：85.4% (回答対象高等学校の平均値78.6%)

産学官の連携体制

学校運営協議会での協議内容、学校や地域の目標・課題を庄原ひとづくりコンソーシアムと共有することで、産学官が連携・協働した教育課程を計画的・体系的に実施

庄原実業高等学校
庄原市
庄原農協
庄原市工業所
農業技術大学校
広島県立大学



成果・効果

- ◆現在学んでいる学校・学科に進んだことを大変よかったと思っている生徒の割合
庄原実業高校：83.7% (回答対象高等学校の平均値43.1%)
- ◆地域に関する学習や体験活動を行うことで、地域の良さに気づくことができた生徒の割合
庄原実業高校：85.4% (回答対象高等学校の平均値78.6%)

大変よかったと思う
地域のよさに気づくことができた

◆上記は、標記調査の昨年11月に報告された調査結果からの資料です。参考事例であげられている「成果・効果・ポイント」は、士幌町においても徐々に現れてきているものではないでしょうか。◆士幌町のCSも今年度の総括と、次年度への展望を、全体会議で確認していけるといいですね。◆春と冬を行き来する昨今。健康に留意して3月を過ごしましょう。(渋谷)

大人の『本気』が子どもの『志』を育む!